

令和5年度 第2回学校運営協議会・学校関係者評価委員会 議事録

期日：令和5年11月30日（木）

10:00～11:50

場所：岡山西支援学校 小会議室

○出席者：委員8名

岡田委員、澤井委員、武縄委員、田中委員、友末委員、萩原委員、
安原委員、山岡委員

本校教職員7名

宮内副校長、神田事務長、小銭教頭、小川教頭、小田教頭、
濱野主幹教諭、竹内生徒指導主事

1 開 会

（学校長）年末に向けてお忙しい中、お集まりいただき、感謝している。先日、お忙しい中、委員の皆様には西支援祭への参加をご案内させていただいた。次年度以降、地域の方にもご案内できるようになればと考えている。今日は、この後ご報告させていただくが、今年度も子どもたち一人一人のニーズに合った活動の実施や卒業後の社会参加に向けた取組を進めている。今年度のまとめに向けて参考にさせていただきたいと考えているので、忌憚のないご意見をお聞かせ願いたい。

2 協 議

（1）各学部の様子について

<副校長・各部教頭が資料により説明>

（副校長）・小学部は学校生活のスタートの大切な部分を担当しており、学ぶ基本を作る学部である。まずは楽しむことに重点を置き、意欲をしっかりと上げていきたい。

- ・西っ子プロは本校独自のもので、高等部の教職員や生徒が小学部の児童に教えることで、キャリア発達を促している。
- ・遠足や校外学習では経験の拡大を図り、学んだことの集大成として修学旅行を位置付けている。
- ・様々なアプリを使って端末を活用し、学習に生かすこともできている。
- ・居住地校交流については直接相手校に出向く形態が増えてきた。保護者からも高評価をいただいている。

（中教頭）・中学部はこれまで小学部段階で身に付けた力をさらに高め、高等部・その後へつなぐということを意識している。それとともに「地域とつながる」ことを大切にしながら学部経営を進めている。

- ・今年度は御南西公民館のヨーガ教室の指導者・受講者（地域の方々）や岡山大学の武鍵先生を本校にお迎えする中で、生徒たちはしっかり楽し

みながらいろいろな経験を拡大していくことができた。また、我々教職員も指導・支援に当たるうえで非常に参考になる部分が多かった。

- ・御南中学校との交流学习では1学期に本校、2学期に御南中学校にそれぞれ出向き、ゲーム的な活動や自己紹介を中心とした活動を行っている。1学期に実施したボウリングゲームではお互いにボールを手渡したりするなどのやり取りも見られており、非常にうれしく思っている。
- ・高等部から依頼を受け、シャインマスカットの敷き紙づくりにも取り組んできた。1学期には高等部教頭に納品し、敷き紙を敷いたシャインマスカットは「ひらたの市」でも販売された。

(高教頭)・高等部は卒業後に地域で生きる(生活する)ことを強く意識している。地域販売では生徒たちは品出しをしたり、包装したりなどの学習に意欲的に取り組んでいる。西っ子マルシェは7月と9月に実施することができた。近隣の皆様にも12月に実施する予定である。

- ・西支援祭では4つの班の販売活動と清掃の実演を行った。大勢のお客様の前で生徒たちは日ごろの学習の成果を十分に発揮し、満面の笑みで堂々とした空気感があり、私も感動を覚えた。
- ・地域型実習は高1、2で実施している。学校で身に付けた力を地域で発揮することができている。また、生徒会は地域の高齢者宅へお祝い訪問に出向き、お祝いの言葉や製品のプレゼントを行っている。どちらも後日お電話やお手紙をいただき、生徒たちにとっても励みになる活動である。
- ・修学旅行は今年度、滋賀・京都方面での活動を行った。事前学習で調べ学習を入念に行い、振り返りもポートフォリオの手法を活用しながら丁寧に行っていた。

(訪教頭)・訪問教育は、全員が医療的ケアを必要としており、健康状態を第一としながら保護者や医療機関と密に連携を図って教育活動を進めている。

- ・月に1回程度実施されるスクーリング(こばと学級)では、今年度は祭りをテーマとして、取組を進めている。夏祭りでは、授業で製作したお面を飾りお面屋さんを紹介したり、氷の感触を楽しんだりした。また、秋祭りでは子供たちが訪問みこしを装飾し、みんなで担いだり、和太鼓の演奏等を行ったりした。
- ・修学旅行は小6が北長瀬駅で電車の音や風圧を感じ取ったり、中3が四国水族館でイルカショーや水槽の生き物を非常に興味深く見たりと非常に有意義な学習となった。
- ・なかなか外に出る場面は限られているが、スクーリングや校外学習等の機会をとらえ、しっかり体験的な活動も取り入れていきたい。

<委員の方から>

- (委員) 小学部の方で、外へ出かける活動に重きを置いて取り組まれているが、地域に児童が参加しやすいものがあれば、紹介をお願いしたい。
- (委員) 中学部・高等部ぐらいならば、紹介できるものもあるが、小学部段階では少し難しいかもしれない。
- (委員) 地域とすれば受け入れは可能。「ベターライフ御南」では小学生以下の子どもたち対象にいろいろ楽しい活動を行っている。先日もおひさまキッズの子どもたちが正月のしめ縄づくりの活動に参加された。ただ、開催がどうしても土・日曜日なので、支援学校には難しいかもしれない。
- (委員) 御南中学校側から課題や要望等があれば。
- (委員) 交流は年2回、これからも続けていけたらと考えている。生徒たちには体験を重視し、いろいろなことにチャレンジさせたいので、機会があれば積極的にボランティアとして参加させたいと思っている。西支援祭を今後地域に開放されるなら、本校でも紹介して、販売活動等も一緒に協力させてもらえたら。
- (委員) 地域型実習、実習を受け入れる側として学校に留意してほしいことなどあれば。
- (委員) 大人になるとき地域で活躍することが大きな目的となる。西支援学校から2人来てもらっているが、休まず、ずっと働いている。教育を受けた環境、育った環境は本当に大事で、地域で育っているな、地域の思いが詰まっているなど感じている。

(2) いじめ対策について

<資料により説明>

- (生徒指導主事)・小学部についてはまずしっかり聞き取り、表現が難しい児童については表情を見ながら、複数の目で観察を行った。たたく児童が減り、環境設定の有効性を感じている教師も多い。
- ・中学部については、アンテナを高く張り「たたかれた」という事実を認定した。しっかり気持ちを汲み取り、今後どのようにしたらよいか考えるようにしている。
 - ・高等部についてはストレスとの付き合い方が課題である。相談しやすい環境づくりをと考え、教育相談期間を設定し、困っていることを一緒にしっかり考え対応するようにした。安心して過ごせる生徒たちも増えてきている。
 - ・外部との連携については岡山西警察署のスクールサポーターに来校していただくなど、各機関と連携し、ケース会を開いたり、校内でサポート委員会を開くなどして情報共有に努めたりしている。

- ・ SNSとの付き合い方は今後の課題であり、トラブルがあったとき、ルール等を各家庭と連携をとって確認するようにしている。

- (委員) 安心して過ごせる環境づくり、知的の特別支援学校では大きな観点である。このことについてご助言等あれば。
- (委員) 生徒指導が一番難しいのは高等部。見えないところでやり取りをしたり、「悪口を言われた」「いやなことをされた」など教師が入って表面上は解決しても、また再燃するケースが多い。「人との付き合い方」「距離感」などは問題が起こったときだけでなく、常に指導していく必要性がある。
- (委員) 距離感は本当に難しく、うちの子は好きな人に顔を近づけるなど日常にやっている部分がある。ただ、やっている加害・被害に対して、それぞれ環境を整えてくださっていることに安心し、その時の機嫌や表情を見て適切に細かく指導をしてくださっているのだと感じている。
- (委員) 適切な対応に感心している。年齢が小から中、中から高へと上がるにつれて濃度も上がっていく。こちらに挙げられた関係機関、相談支援機関とケース会等を行う上で背景を基にどのようなアプローチが行えるか。外部の方からアドバイスを受けて学校でできるアプローチを考えてほしい。
- (委員) 加害側でなく、被害側がどう感じているかが今の世の中のポイント。うまく発言できなくてもいじめととらえ、現代的な対応をしていく必要がある。

(3) 校内参観

<校内を参観>

(4) まとめ(各委員からのご意見・ご感想)

- (委員) 4年ぶりの西支援祭。地域のものとするれば、うれしく思っている。一人でも多く、地域に足を運んでもらいたい。以前は防災の関係でも足を運ばせてもらった。コロナも5類になり、ますます学校への出入りが多くなればありがたい。普段から登校時に見守りをしているが、私だけでなく、他の見守り者にも挨拶ができるようになってきた。今後ともよろしく願いたい。
- (委員) 今日の校内見学で西支援祭の時の答え合わせができたと思っている。西支援祭で販売されたクッキーをいただいたが、それが今日の見学でどのように作られているのかわかってよかった。また、西支援祭の振り返りやカレンダーづくりなど季節を感じたり、時季を感じたりする学習活動に子どもたちが楽しく、期待をもって取り組んでいる様子を親として見られてよかった。

- (委員) 小・中・高と見ていくにあたり、将来が見えるようだった。見学は私自身6回目となる。見るたびに子どもたち一人一人に合わせた取り組みがなされているなど感じる。高等部のさをり織りのやり方を今日初めて見学し、高度なことをされているなど思った。また、障害の重い、訪問教育のお子さんが来られているときに、ぜひ学校運営協議会を設定していただけるとありがたい。医療的ケア児の保護者のワークライフバランスを考えた時、お母さんが働けない比率が非常に高い。保護者の働き方も大きな課題であり、国・県を含めての課題であると考えている。
- (委員) 先日は教員同士の研修会等で交流があり、本校の教職員も大いに啓発されたようである。生徒たちも早くから交流して交流に慣れる、ボランティアとしてお手伝いができるようになれば。また、機会があれば、合唱コンクールにも来てもらえたら。お互いがお互いを理解し、御南学区の中で一緒に生きていけたらと考えている。
- (委員) 私に説明してくれた生徒さんを含め、この方々が卒業後どこに行くのかと感じた。いつか所得補償がしていける時が来れば。給料が上がると人は変わり、働けるようになる。働けるようになれば休まない。日々の体験からの成長が一番である。
- (委員) いろいろな人と関わることを大切にしていってほしい。スキルは大人になるとさほど大きな問題ではなく、人とコミュニケーションをとったり、周りとうまく付き合っていったり、一緒に過ごしたりしていけることが大事だと考えている。高等部では仕事をする事の大切さ、物を作る喜びを味わってほしい。そして外の人に受け入れられたり、喜んでもらえたりする経験を積んでいってほしい。
- (委員) 社会に参加できること、これは大きな節目の一つである。外部から見ると、特別支援学校は閉ざされた感じがし、就労の道も狭い。本学では特別支援学校の子どもたちと一緒に活動する機会を設けているが、外部の方と関わっていくことで就労にもつながってくる。丁寧ないろいろなことを身に付けさせることを十分担保したうえで、学齢期からの指導を今後もお願いしたい。

学校関係者評価委員会

<主幹教諭が資料により説明>

- ・90.6%の保護者、及び教職員からは100%の回答を得た。
- ・わかりやすいように保護者・教職員のアンケート項目を組み替えた。

(委員) 評価アンケートの中にある「よくわからない」のは、よくわからないなので、達成度と一緒に集計するのはどうか。いずれの項目も学校は達成度が高く、よくやられている。

3 閉 会

(学校長) 本日は学校運営協議会、学校関係者評価委員会と、二つの会をさせていただいた。今後まとめの作業を行うにあたり、学校運営協議会をどのように育てていくのかが大きな課題である。お互い情報交換をしながらより良い会に、そして学校が地域にとってより良い存在となるよう今後ともご協力をお願いしたい。